

溶剤系1液形 多用途高密着プライマー

ワンダープライマー

特 長

- 1) 特殊変性樹脂が、陶磁器質タイル・各種プラスチック・金属など幅広い下地に対して抜群の密着性を発揮します。
- 2) 劣化層・脆弱層に浸透し、下地を補強します。
- 3) 速乾性で各種上塗塗料や仕上塗材との密着性にすぐれます。
- 4) 1液形です。2液形のような調合の手間がいらず、均質な性能が得られます。
- 5) 弾性塗材の下塗材にも好適で、下地及び上塗の適用幅が広範囲です。

適用部位

建築物の内外壁、屋根、扉、貯水タンク、パイプ(常温液体用に限る)
看板など(床面、屋上防水などには適用できません)

主な適用下地

無機質系	コンクリート・モルタル ※1	○	屋根材	釉薬瓦	○
	特殊サイディングボード (光触媒・無機系・ふっ素樹脂系) ※2	×		素焼瓦	×
	けい酸カルシウム板	×		洋風コンクリート瓦(モニエル瓦)	×
	ホーロー鋼板	○		いぶし瓦	×
	陶器質タイル ※3 ※4 ※5	○		※10 スレート化粧瓦	○
	磁器質タイル ※3 ※4 ※5	○		セメント瓦	○
プラスチック系	ガラス板 ※6	○	金属系	ステンレス(SUS304)	○
	アクリル板	○		ガルバリウム鋼板	○
	硬質塩ビ	○		ボンデ鋼板	○
	FRP(成型品) ※8	○		アルミニウム	○
	ポリカーボネート ※9	○		電気亜鉛めっき	○
	ABS ※9	○		※11 溶融亜鉛めっき	×
	ベークライト	○		※12 クロムめっき	○
	ポリエチレンテレフタレート(PET)	○		銅板(屋根材を除く)	○
	ポリエチレン(PE)	×		トタン	○
	※7 ポリプロピレン(PP)	×		ブリキ	○
	デコラ板	○		軟鋼板	○
	メラミン化粧板	○		塩ビ被覆鋼板	×

密着向上成分を組込んだ
特殊変性樹脂が強力に密着

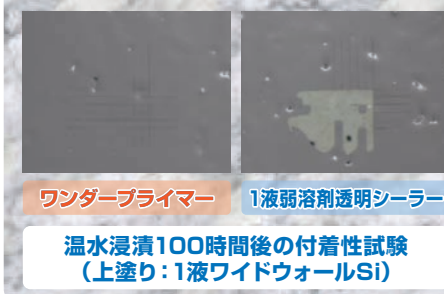
樹脂の末端に
導入した
密着向上成分

ワンダー
プライマー

下 地

種々の
下地表面へ
強力に密着!

陶磁器質タイルへの塗装に好適



ワンダープライマー 1液弱溶剤透明シーラー

温水浸漬100時間後の付着性試験
(上塗り: 1液ワイドウォールSi)

塗料性状

色	透明
乾燥時間(23℃)	1時間
危険物分類	第四類第一石油類
有機溶剤区分	第二種有機溶剤等
容 姿	1液性
容 量	14kg・3.5kg

※1: 吸い込みの激しい下地の場合は、2回以上、吸込みがなくなるまで塗装してください。

※2: 光触媒・無機系、ふっ素樹脂塗料などが施された特殊サイディングボードへの塗装は避けてください。特殊サイディングボードへ塗装する場合は、WBグリップシーラー EPOをご使用ください。

※3: 過剰に吸い込みの激しいタイル(一部のレンガタイル等)への塗装は避けてください。塗装に先立ち塗装可否の判定試験を行ってください。基材に油性マジックで書いた文字が、溶剤を含ませたウエスで簡単にふき取れる場合は塗装可能です。(判定試験は基材表面の撥水剤や汚れを十分に除去した上で行ってください。)

※4: ラスタータイル、グラファイトを施したいぶしタイルには適用できませんので塗装しないでください。

※5: タイル表面に目地材が付着していると、基材と目地材の層間で剥離を生じる可能性がありますので、洗浄やマジックロン等を用いて除去した上で塗装してください。

※6: 窓枠等にシリコーン系シーリング材が使用されている場合、ガラス板表面にシーリング材由来の汚染物が付着している可能性がありますので、洗浄、溶剤拭きを行うなどして十分に除去した上で塗装を行ってください。

※7: プラスチック系下地は、溶剤により溶解や膨潤をしやすい、特にカーポート屋根等、ひずみが生じているような負荷のかかった部位では、ひび割れを生じる可能性がありますので、十分に試験を行った上でご使用ください。

※8: FRPは、目粗しを行い、付着性を確認の上、ご使用ください。また、塗装表面に基材の毛羽立ちが残ると、膨れを生じる可能性がありますので、ご注意ください。

※9: ポリカーボネートやABSは、耐溶剤性に劣るため、本品をローラー、はけで塗装すると表面に割れを生じると共に、白濁する可能性がありますので、スプレーにて薄く塗装してください。

※10: 屋根材の既存塗膜の劣化が激しい場合や素地面が露出し、ぜい弱な場合は、塗替え塗膜のはく離の原因となる可能性があるため、塗装を避け、屋根材の貼り替えをお薦めします。洋風コンクリート瓦(モニエル瓦など)、いぶし瓦には使用しないでください。化粧スレート瓦などで上下の板の重なり部分にすき間が少ない場合は、塗装前にスペーサー部材(タスペーサーなど)を挿入し、排水機能を維持してください。

※11: 下地に付着した切削油、離型剤や、さび等が残存すると剥離を生じる可能性がありますので、必ず脱脂、ケレンを行い、完全に除去した上で塗装してください。溶融亜鉛めっきや黒皮鋼板は剥離を生じやすいため、塗装する場合は必ず十分な下地処理を行ってください。

※12: 金属に対する防錆効果はありません。錆を生じやすい金属等は、フラッシュラスト(点さび)を生じる可能性があります。

標準塗装仕様

塗料	調合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)
ワンダープライマー	100 (無希釈)	0.08~0.10	1時間以上※

- 塗付量は、標準的な数値です。被塗物の形状や、下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。
 - 下地の吸い込みが著しい場合は、工程内での塗装間隔を1時間以上あけて、2回塗りしてください。
 - 無希釈の設定ですが、粘度調整が必要な場合には、スズカシンナー #1000を用いて希釈してください。
- ※：上塗りに水系塗料、仕上塗材、つや消し塗料を使用する場合には、塗装間隔を3時間以上取ってください。

適用塗料・塗材 (主な商品名)

水 系：ウォールバリアシリーズ、ユニシリーズ、ビーズコートシリーズ、エコシリーズ
 弱溶剤系：1液ワイドシリーズ、1液ワイドウォールシリーズ、ワイドエポーレシリーズ
 ワイドエポーレウォールシリーズ、ルーフバリアシリーズ
 仕上塗材(コンクリート・モルタル下地の外壁)：WBリメイク弾性フィラー EPO、リメイクソフト等
 ※適用部位については、塗料および仕上塗材の製品カタログに記載の用途、適用部位をご参照ください。
 ※上塗りにクリヤーやカラークリヤー塗料を使用しないでください。

塗装上の注意事項

- 気温 5℃以下、湿度 85%以上または結露、降雨、降雪、強風のおそれのある場合は塗装を避けてください。
- 各種基材において、十分に密着性の確認を行っておりますが、メーカーや種類によっては密着性が安定しない場合があります。また、新素材及び特殊素材等は、試験塗装の上、密着性を確認した後にご使用ください。
- 旧塗膜の耐溶剤性が劣る場合、リフティングを生じる可能性がありますので、スズカシンナー #1000 を含ませたウエスで塗膜を押さえる等の方法で、耐溶剤を確認した後に塗装を行ってください。
- 旧塗膜が模様材や、弾性系の塗材の場合、下地がシーリング材などの可塑性を含む素材の場合には、塗装後の塗膜にべたつきを生じる恐れや、膨れを生じる恐れがありますので、塗装は避けてください。
- 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので養生、塗装時及び塗装後の換気を十分に行ってください。
- 基材表面に付着した藻、煤煙、油分などの汚染物質や、基材表面に残存した撥水剤、離型剤、洗剤などは、はく離の原因となる可能性がありますので、必ず脱脂、洗浄、目粗し等により十分に除去した上で塗装を行ってください。
- 目地部および開口部回りのシーリング打ち替えは、新築時と同じく後打ちを推奨いたします。やむを得ず塗装を行う場合は、シーリング材が十分に硬化していることを確認の上、予めラフトン逆プライマーを塗装してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は 2 回塗りしてください。シリコン系シーリング材、ブチルゴム系シーリング材へは、塗装を避けてください。)
- このカタログに記載以外の下地や仕様で塗装される場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

取扱いの注意事項

- 製品を正しく安全にご使用いただくために、下記事項を守ってください。
- 引火性の液体ですので、火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがありますから、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
 - ・有毒ガス用防毒マスクまたは送気マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣
 - ・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から取り出すときは、こぼれないようにしてください。
 - もしこぼれた場合は、火災、スベリ、中毒、流出の危険があるので直ちに回収し、拭き取った布等は水の入った容器に保管してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。特に下記の場所の保管は避けてください。
 - ・雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結が予想される場所など
- 捨てる時には、産業廃棄物として処分してください。
- 詳細な内容が必要なときは安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、または粉末消火器を用い初期消火をしてください。



営業本部 ☎ 510-0101 三重県四日市市楠町小倉1058-4 ☎ 059-397-2187 FAX 059-397-6191
 研究開発本部 ☎ 510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎ 059-346-1116 FAX 059-346-4585

札幌支店 ☎ 0133-60-6311 東京支店 ☎ 03-5661-2211 名古屋支店 ☎ 052-411-1255
 大阪支店 ☎ 072-862-1601 広島支店 ☎ 082-277-1116 四国支店 ☎ 0877-24-4621
 九州支店 ☎ 092-938-0071

取扱店

URL <http://www.suzukafine.co.jp/>

●このカタログに記載の商品の内容は、改良などのため予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。